

# 食品安全と サステナビリティ における 新たな傾向



LRQAの「食品安全リーダーシップシリーズ」の最新版へようこそ。本シリーズは、食品の安全・品質のプロフェッショナルが業界における現在と将来の課題を論じ、テーマの専門家が議論を主導するフォーラムです。

この最新のディスカッションでは、LRQAとFSSC 22000の専門家が、ISO規格の整合が、組織内だけでなくサプライチェーン全体で組織のサステナビリティの目標達成にどのように有益であるかを議論します。また、国連加盟国により策定・採択されたSDGs(持続可能な開発目標)が、組織がサステナビリティに関連した行動や決定を形成するうえでどのように役立つかという点についても取り上げています。

完全版は、[こちら](#)のリンク先からオンデマンドでご覧いただけます。

## 参加した専門家



**ジャクリーヌ・サウシー**  
北米代表者  
FSSC 22000



**ヘザー・ムーア**  
サステナビリティ・サプライチェーン・  
テクニカルディレクター | LRQA



**ティム・アン**  
シニアマネージャー - 食品安全担当  
LRQA

# 3つの重要ポイント

## 効果的なISOの整合されたフレームワークを用いた、サステナビリティに関する信頼構築

### ヘザー

サステナビリティは、取締役会レベルから工場の現場まで、組織の業務のあらゆる部分に関わっており、正しく実施された場合、組織の変革につながる可能性があります。現在では、組織が自社のビジネスにとってサステナビリティがいかに重要であるかを認識するようになっており、自社の業務にとってサステナビリティがどのような意味を持つか、どうすれば目標を達成できるか、そしてサステナビリティを重視している組織であることをどのように示すかを定義しようと取り組んでいます。

サステナビリティの実績を証明するためのカギは、何を改善・管理する必要があるかを特定し、それから目標の達成ならびに測定を行った後で、独立した検証を通じて革新をもって報告することにより信頼を構築することにあります。持続可能な開発目標 (SDGs) と整合性のあるISO規格の構造を確立することは、組織がこれらの目標を達成するのに役立ちます。

### ジャクリーヌ

組織にとって、マネジメントシステムの導入には、自社における資源の使用を最適化し、製品の品質を保証し、リスクを防止し、業績を改善するうえで役立つという利点があります。ISOは、ISO 22000、ISO 14001、ISO 50001、ISO 45001、ISO 27001、そしてISO 37001のための整合性のあるフレームワークを開発しています。それぞれの規格がビジネスの異なる部分をサポートする一方で、ビジネス、経済、およびサステナビリティな目標を達成するための監視や測定の方法という点では、これらの規格が整合化されています。

この規格のフレームワークには共通する10の条項があり、同じ形式で記載されるだけでなく、中核となる言語や用語も同一です。例えば、ISO 22000食品安全マネジメントシステム (FSMS) は、2018年の改訂時に、統一された構造に合わせた記述に変更されました。このことは、食品安全業界に大きなインパクトを与えました。なぜなら、FSSC 22000の土台でもあったFSMSが、他のマネジメントシステムと統合するようになったからです。

一連の統合された規格全体で共通の言語を使用することで、より効果的なコミュニケーションが可能になります。つまり、組織全体のチームが、リスクを軽減して、時間とコストを節約することで効率性を向上させるため、協力できるようになるのです。

さらに、マネジメントシステムに関する規格を用いることは、サステナビリティに関する国連の目標にも寄与します。すなわち、マネジメントシステムの統合、システムの共有、ならびに従業員への適切な労働条件の提供のメリットが明確になり、国際的に認められたフレームワークに沿って業務を行うようになるため、経済面での成長や市場シェアの増加につながります。

サステナビリティの実績を証明するためのカギは、何を改善・管理する必要があるかを特定し、それから目標の達成ならびに測定を行うことにより、信頼を構築することにあります。測定した結果は、独立した検証を行うことで、確信をもって報告できます。

ヘザー・ムーア

# ISOの整合されたフレームワークを用いた、 国連のサステナビリティ目標達成への貢献

## ジャクリーヌ

食品の安全は、サステナビリティ目標の達成を実現する手段となります。具体的に食品産業に関連しており、ISO 22000を用いることでサポートできる、重要な持続可能な開発目標が4つあります。そのため、持続可能な未来の実現に向け努力するにあたり、ISO 22000は業務の基準とすべき優れた枠組みとなります。

主要なSDGsとしては、貧困と飢餓に関連するSDG 1およびSDG 2、水の使用に関連するSDG 6、そして責任ある生産と、消費者の期待や行動の変化への確実な対応に重点を置くSDG 12などがあります。

## ティム

安全な食品なくして食料安全保障を達成することは不可能であり、したがってSDG 1とSDG 2は、強固なFSMSを用いて取り組みを進める際に、非常に大きな価値があります。このSDGsの仕組みにより、組織はサプライチェーン全体で食品の安全性を強化し、将来的に人々のために十分な食料を確保し、不必要な食品ロスをなくすことができます。

SDG 12は、食品の材料そして私たちが使用する包装に関連する重要な目標です。組織は、一步下って自社の製品を見つめ、その原料の産地について理解し、消費者に提供する製品に使用されている材料について把握しない限り、持続可能な解決策を生み出すことは難しいでしょう。責任ある生産を推進しサステナビリティ目標を達成できるように将来的に適切な原料と包装を確保するために、この領域においていかに革新を実践するかという点で、食品安全は重要な実現手段の一つなのです。

## ヘザー

ISOのフレームワークをSDGsと整合させることには、真の意味でのメリットがあります。サステナビリティを向上させれば、業務の効率性も改善され、投資家や利害関係者、顧客にとっての組織の魅力も高まります。

ただし、考慮すべき要因も数多くあります。例えば、組織が、包装をより持続可能なものにしようとする場合、食品の安全性を損なうことのないようにバランスを取る必要があります。

責任ある生産を推進しサステナビリティ目標を達成できるように将来的に適切な原料と包装を確保するために、この領域においていかに革新を実践するかという点で、食品安全は重要な実現手段の一つなのです。

ティム・アン

# サステナビリティのストーリーを伝える意義

## ヘザー

社内にマネジメントシステムを設けて、目標の測定と記録を行うようになったら、結果を利害関係者や顧客と共有すべきです。顧客は、自分が持続可能な組織から購入していることを知りたいと願っているため、組織が自らのストーリーを伝え、自社の行動がもたらす効果を称賛するのは重要なことです。

また、持続可能な食品についての期待が変化していることも忘れてはいけません。成功とは、組織が行う主張ではなく、組織がとる行動によってもたらされません。組織は、製品だけを売るのはありません。プロセス、材料、そして追跡可能で信頼できることが求められるサプライチェーンを売り込んでいるのです。

## ティム

2、3年前の消費者は、材料やパッケージに基づいて製品を購入していましたが、現在の消費者は、それよりも多くを求めています。パッケージを読んで、どこから来た製品で、誰が作ったのかを確かめるようになったのです。自分が購入するものが持続可能な製品であるという保証を求めているからです。消費者にとっては、製品を単に消費するだけではもはや十分ではなく、責任ある形で消費しているのだという確証を得たいのです。そのため、ISO 22000(FSMS)を通じてのデータや証拠で裏付けられる、製品についてのストーリーを伝えることが大切です。

これに加えて、プロセスを完了させるためにこれまで継続して行ってきた手法が、正しいやり方ではなくなっている場合もあります。組織は、決まったやり方に疑問を持ち、一歩下がったところからプロセスやマネジメント計画を見直すことで、最も持続可能な方法で取り組んでいるのだと確認する必要があります。

## ジャクリーヌ

規格に関する統一された構造があることで、組織として、絶えず変化する状況への適応を図っていることが実証されます。こうした姿勢は、サステナビリティに関する実績に反映されるものです。

顧客は、自分が持続可能な組織から購入していることを知りたいと願っているため、組織が自らのストーリーを伝え、自社の行動がもたらす効果を称賛するのは重要なことです。

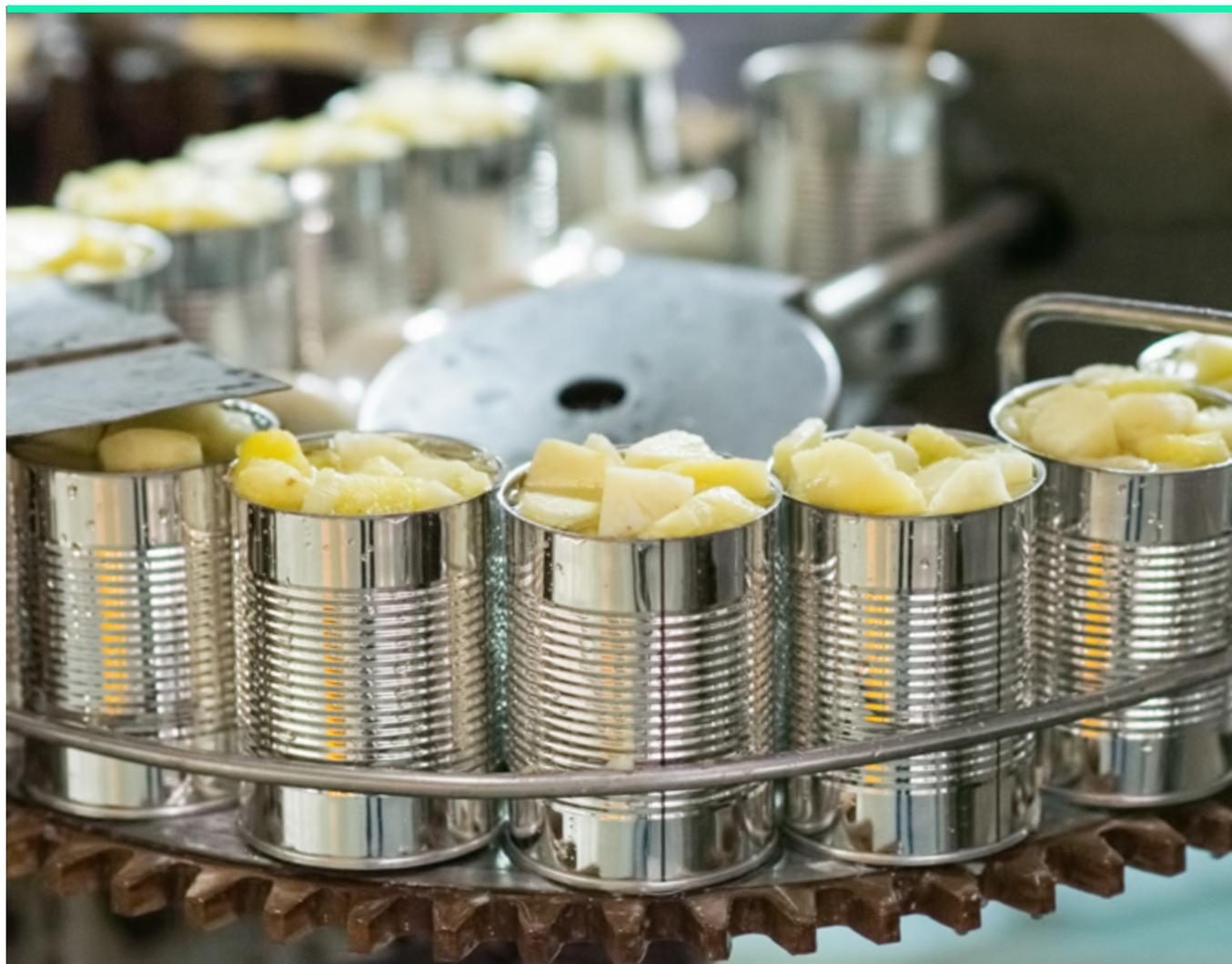
ヘザー・ムーア



# LRQAのサービスについて

LRQAは、食品安全認証とブランド保証ソリューションの分野における、世界有数のサービスプロバイダーです。農家、水産業者、食品メーカー、レストラン、ホテル、グローバルな小売業者と協力することで、革新的なテクノロジーと包括的な教育・訓練により裏打ちされた技術的専門知識を活用しながら、サプライチェーンの全過程で食品安全とサステナビリティに関わるリスク管理をサポートしています。

食品サプライチェーンが複雑になるにつれて、ブランドや評判ならびに株主価値に関連する課題は、必然的に大きくなります。LRQAはお客様と連携し、お客様が求めるとおりのサービスを、実用的かつコスト効率の高い方法で提供します。





LRQA

YOUR FUTURE. OUR FOCUS.

## LRQAについて

認証、ブランド保証、教育研修における比類のない専門知識を結集したLRQAは、食品の安全性と保証のソリューションを提供する世界有数の企業です。農家、水産業者、食品メーカー、レストラン、ホテル、グローバルな小売業者との協力のもと、サプライチェーンの全過程で食品安全とサステナビリティに関わるリスク管理をサポートし、世界有数の認証機関になりました。

その伝統は誇るべきものですが、顧客との今後のパートナー関係を構築する上で、本当に重要なのは現在のLRQAの姿です。揺るぎない価値・リスク管理、軽減における数十年の経験・未来への的確なフォーカスを組み合わせることで、より安心・安全・持続可能なビジネス構築に向けてお客様をいつでも支援します。

独立した審査・認証・教育研修から、リアルタイムの認証技術・データによるサプライチェーン改革まで、当社の革新的なエンドツーエンドのソリューションが、変化の速いリスク環境に積極的に対処できるようお客様をサポートします。つまり、未来の状況を成り行きに任せるのではなく、お客様が自ら構築できるようになるのです。

### お問い合わせ

詳細については、<https://www.lrqa.com/ja-jp/>をご覧ください。



LRQA リミテッド  
〒220-6010  
横浜市西区みなとみらい2-3-1  
クイーンズタワーA10階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQA リミテッドでは細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について当社は一切の責任を負いません。LRQA は、LRQA Group Limited およびその子会社の商号です。

詳細については[www.lrqa.com/entities](http://www.lrqa.com/entities)をご参照ください。

© LRQA Group Limited 2022

